

計量経済 II：宿題 4

村澤 康友

提出期限：2022 年 10 月 25 日

注意：すべての質問に解答しなければ提出とは認めない。授業の HP の解答例を正確に再現すること（乱数は除く）。グループで取り組んでよいが、個別に提出すること。解答例をコピーしたり、他人の名前で提出した場合は、提出点を 0 点とし、再提出も認めない。すべての結果をワープロに貼り付けて印刷し（A4 縦・両面印刷可・手書き不可）、2 枚以上になる場合は必ず左上隅をホッチキスで留めること。

1. gretl で正規 AR(1) 過程を生成する手順は以下の通り。

(a) メニューの「追加」→「ランダムな変数」で y, w を正規乱数として作成。

(b) メニューの「追加」→「新規変数の定義」で例えば $\phi := 0.5$ なら $y = 0.5 * y(-1) + w$ として y を作り直す。

観測数 1000 の時系列データセットを作成し、 $\phi := 0.9$ の正規 AR(1) 過程を生成して、時系列グラフとコレログラムを描きなさい。

※時系列データセットは以下の手順で作成する。

(a) メニューから「ファイル」→「データセットの新規作成」を選択。

(b) 「観測数」を入力して「OK」をクリック。

(c) 「時系列」を選択して「進む」をクリック。

(d) その他は適当に指定。

2. gretl で正規 MA(1) 過程を生成する手順は以下の通り。

(a) w を正規乱数として作成。

(b) 例えば $\theta := 0.5$ なら $y = w - 0.5 * w(-1)$ とする。

観測数 1000 の時系列データセットを作成し、 $\theta := -0.9$ の正規 MA(1) 過程を生成して、時系列グラフとコレログラムを描きなさい。

3. gretl で正規 ARMA(1,1) 過程を生成する手順は以下の通り。

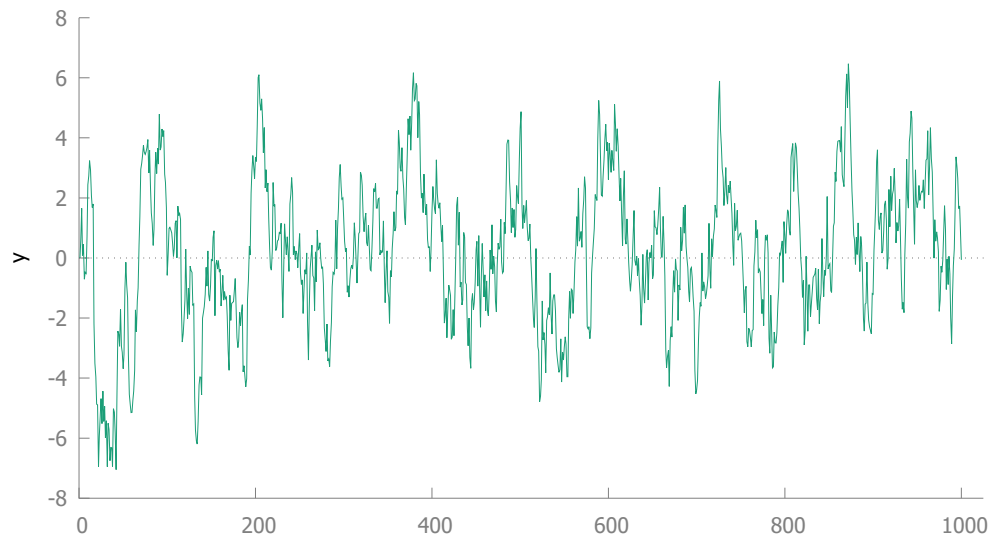
(a) y, w を正規乱数として作成。

(b) 例えば $\phi := 0.5$, $\theta := 0.5$ なら $y = 0.5 * y(-1) + w - 0.5 * w(-1)$ として y を作り直す。

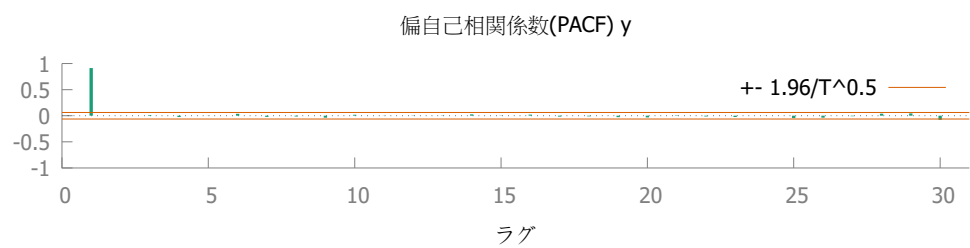
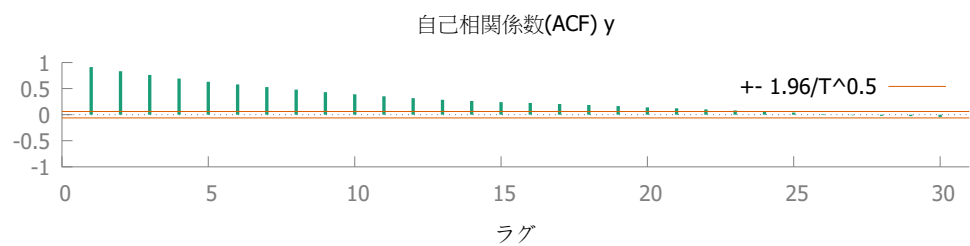
観測数 1000 の時系列データセットを作成し、 $\phi := 0.9$, $\theta := -0.9$ の正規 ARMA(1,1) 過程を生成して、時系列グラフとコレログラムを描きなさい。

解答例

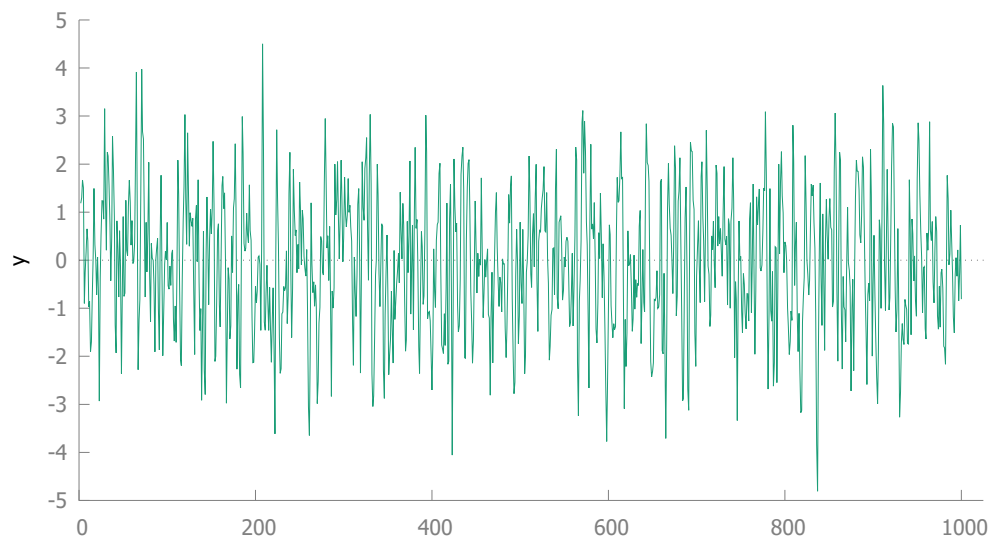
1. 時系列グラフ



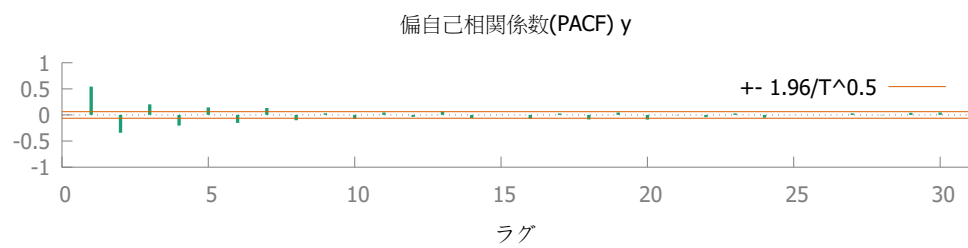
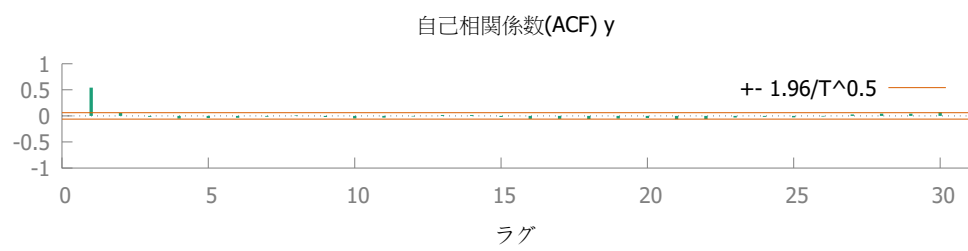
コレログラム



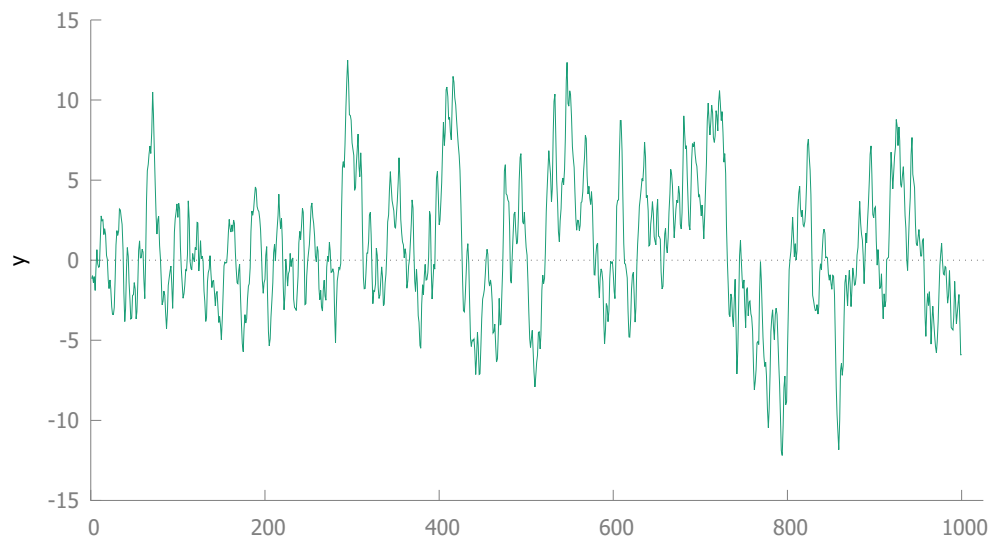
2. 時系列グラフ



コレログラム



3. 時系列グラフ



コレログラム

